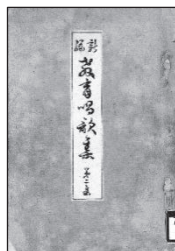
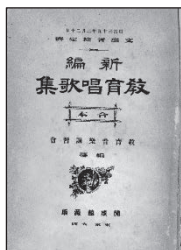
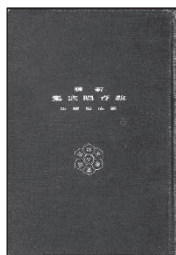


しんぺんきょういくしょうかしゅう

＃6 新編教育唱歌集

編纂：教育音楽講習会（きょういくおんがくこうしゅうかい）

刊行：明治39年（1906）



※左より、『新編教育唱歌集』、(同左) 中表紙、『新編教育唱歌集 2集』

♪ 解題

■ 内容

『新編教育唱歌集』は文部省の検定を受けた民間の教科書の1つで、第1集から第8集まで全247曲が収録されている唱歌集である。主に小学校、尋常師範学校、高等女学校、音楽講習会の唱歌教材として幅広い用途を示している。初版は明治29年（1896）、当館の所蔵は明治39年発行の合本7版。

文部省選定の儀式唱歌や、音楽取調掛編集の『幼稚園唱歌集』『小学唱歌集』からも多数採用しているが、新作や他の図書に発表されていたもの等も収録されており、収録曲は国家主義的な皇国思想や徳目に極端に偏らない立場で幅広く選曲されている。明治期を代表する唱歌ともいえる佐佐木信綱作詞、小山作之助作曲の「夏は来ぬ」は明治33年に発表され、明治38年『新編教育唱歌集』の修正5版に収められた。旗野十一郎作詞、吉田信太作曲「港」などと共に広く歌われ、現代でも歌い継がれている。

また、合本7版で収録されている楽譜はすべて五線譜であるのに対し、初版の楽譜は、数字譜のみで記載されている。

なお、国立国会図書館デジタルコレクションでは、『新編教育唱歌集』の

初版、訂正4版、『新編教育唱歌集 2集』を見ることができる。

■ 作者

本書を出版したのは三木楽器株式会社の4代目社長であった三木佐助(1852-1926)。三木楽器株式会社は、初代三木佐助社長が文政8年(1825)に「河内屋佐助」と称し、貸本屋として創業。その後、出版や教育書店などの書籍業に参入した。4代目三木佐助社長は、安政6年(1859)に河内屋佐助に奉公。明治17年(1884)に河内屋佐助の家督を継ぎ、4代目三木佐助となったと言われている。このころ、明治13年(1880)にL・W・メーンソンが来日し、日本の音楽教育が急速に発展を遂げつつある時代であった。明治21年(1888)からオルガン、ついでバイオリン・ピアノ楽器の取り扱いを開始し、音楽の領域に特化。文明開化の流れの中で、西洋の楽器を取り扱うようになり、明治29年(1896)に『新編教育唱歌集』を出版した。

本書の他にも、合唱の練習書として使われる『コールユーブンゲン』の翻訳権の取得・出版、『新撰國民唱歌』、『西洋樂譜日本俗曲集』、『地理教育鐵道唱歌』など多くの唱歌集や楽譜などを出版。また、「関西音楽講習会」を実施するなど音楽文化の発展に寄与した。

♪ 類似の唱歌集

- ・『新編教育唱歌集 2集』教育音楽講習会編 三木書店 1896 [SH767.7/88/2]

♪ 参考文献

- ・『日本唱歌全集』井上武士編 音楽之友社 1972 [767.6/111]
- ・『日本音楽教育史』供田武嘉津著 音楽之友社 1996 [762.1/168]
- ・武藤憲夫「唱歌・童謡に関する一考察と教材研究」(『富山短期大学紀要』43(2) 富山短期大学 2008) ※当館未所蔵 富山短期大学学術情報リポジトリで閲覧可
- ・『童謡・唱歌でたどる音楽教科書のあゆみ』松村直行著 和泉書院 2011 [767.7/240]
- ・三木楽器の歴史 <https://www.miki.co.jp/company/history/>
三木楽器は創業190余年 <https://piano.miki.co.jp/190years>